

アート×ナラティブ×災害トラウマ

～記憶の紡ぎ手の役割を考える

吉川由美さんは、仙台を拠点に、街で暮らす人々の記憶や経験の語りをテーマに据えて、心のケアの問題を視野にいれながらアート活動をされてきました。その間に東日本大震災が起き、人々が自分の心の傷や喪失に向き合えるようになるために、アートを通じた南三陸町の復興支援に継続的に携わっております。こうした活動は、心の専門家である臨床心理士といかなる連携できるでしょうか。臨床心理学では、個人のライフ・ストーリーを重視するナラティブ・アプローチが重要視されはじめています。森茂起先生は、神戸の震災を経験した後、PTSDの研究を深め、治療過程での人生史の語りに注目して、地域住民の戦争時の疎開体験の聞き取りなど、複雑に重層化するトラウマ記憶のもつれをときほぐす仕事をされております。今回は、近現代アートにおいてトラウマに対峙した表現や実践について研究を進めている美術史家の石谷治寛をコーディネーターとして、アートの実践家と臨床心理学の専門家の対話を設定しました。トラウマの記憶に向き合うためには、心の傷を含むナラティブや表現がセラピストや相談者から親しい人、そして共同体や社会へ受け入れられ、それを表明する経験が安心や自信につながる事が重要です。心理的な記憶の整理(セラピー)から、個の記憶を公共に媒介・調停(メディエーション)するために、心理とアートの専門家の協同の可能性を議論できればと考えています。

13:30～ 趣旨説明

13:40～14:30 「戦時体験の語りと PTSD の心理療法」(森)

14:40～15:40 「生きる力の取り戻し～南三陸町でのアート活動」(吉川)

休憩をはさんで問題提起と討議・質疑

16:00～16:30 「アートの創造性を公共に媒介する——セラピストとメディエーター」(石谷)

16:30～17:30 討議・質疑

講師紹介

吉川由美 よしかわ・ゆみ

アート・イニシアティブ ENVISI 代表。2004 年以降、仙台市卸町、鳴子温泉郷などでアートプロジェクトを展開。2010 年より、南三陸町の新たな魅力を再発見するアートプロジェクトを展開した。今回の東日本大震災で甚大な被害を受けた南三陸町で、アートを通じ、復興に向けた支援プロジェクトを展開している。またチリの震災の被災者と思いを共有するプロジェクトも行っている。(有)ダ・ハプランニング・ワーク代表取締役、八戸ポータルミュージアムはっち文化創造ディレクター。http://www.envisi.org/

森茂起 もり・しげゆき

甲南大学文学部教授。専門は臨床心理学・トラウマ学。著書に、『トラウマ映画の心理学——映画にみる心の傷』(共著、新水社)、『トラウマの表象と主体』(編著、人文書院)、『戦争の子ども』を考える——体験の記録と理解の試み』(共著、平凡社)ほか。訳書に、S. フェレンツィ『臨床日記』(岩崎学術出版社、N. & J. シミントン『ビオン臨床入門』(金剛出版)、M. シャウアーほか『ナラティブ・エクスプロージャー・セラピー——人生史を語るトラウマ治療』(監訳、金剛出版)など。

石谷治寛 いしたに・はるひろ

甲南大学人間科学研究所博士研究員。近現代芸術史。十九世紀フランスのリアリズム絵画や印象派と当時の心理学との関係を研究した後、現在は、現代のインスタレーションや参加型アートとトラウマ表象、アートセラピーの歴史と理論に関心がある。著書に『幻視とリアリズム——クールベからピサロへ 近代フランス絵画の再考』(人文書院)、『アートセラピー再考——芸術学と臨床の現場から』(共著、平凡社)。訳書にジョナサン・クレーリー『知覚の宙吊り——注意、スペクタクル、近代文化』(共訳、平凡社)など。



2013年3月14日(木)

13:30～ 甲南大学 18号館 3階講演室

◆対象者

心理士、精神分析家、アーティスト、アートセラピスト、アートコーディネーター、芸術学、研究者、災害支援に関心のある方、学生・大学院生など。

◆お申し込み・お問い合わせ

参加ご希望の方は、①氏名 ②連絡先電話番号 ③e-mail アドレス ④専門職の方は所属先を明記し、3月12日(火)までに下記のメールアドレスか FAX にてお申し込みください。参加費は無料です。

E-mail ishihal@center.konan-u.ac.jp FAX 078-435-2683

◆共催 「生活史法による臨床物語論の構築と公共化」

(代表・森岡正芳 分担・森茂起 研究課題番号: 24243066)

「視覚芸術におけるトラウマと心理ケア

——芸術と臨床の連携に向けた歴史研究と理論構築」

(代表・石谷治寛 研究課題番号: 24720084)

◆協力 甲南大学人間科学研究所



阪急岡本駅、JR 摂津本山駅から北西へ徒歩約 10 分



2013年

9月21日(土)~10月19日(土)

月~土 午前9時~午後6時
日、祝 午前9時~午後5時

光島貴之展

さわるためにだけ
存在するものがあったってもいい

関連イベント

対談「触って感じるアレコレ」

光島貴之 (アーティスト) × 服部正 (本学教員)

9月22日(日) 午後2時~4時 甲南大学 5-11教室

Galerie
ギャラリー・パンセ
Pensée

甲南大学(5号館1階)
ギャラリー・パンセ
〒858-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1



光島貴之展—さわるためにだけ存在するものがあるもいい

会期 9月21日(土)～10月19日(土)

開場時間 月～土 午前9時～午後6時 日、祝 午前9時～午後5時 会期中無休

展覧会趣旨

甲南大学では毎年、国内外で活躍している作家による展覧会を行っています。今年は「光島貴之展—さわるためにだけ存在するものがあるもいい」を開催いたします。京都出身の光島貴之(みつしま・たかゆき 1954～)さんは、体験型の作品や触覚に関するワークショップなどで活躍中です。今回は、4点の旧作とともに、ギャラリーの空間にあわせた新作のインスタレーションを展示します。実際に触ることのできる作品を通して、触覚文化について考えていただきたいと思います。

制作に寄せて

全盲であるぼくが作品を発表するようになってかれこれ20年近くになる。最近ある男性に「さわるためにだけ存在するものって何だろう？」と質問すると、「そりゃあ、アレに決まってるやろう」といういやらしいような声が聞こえて来た。

これを一人の男性の他愛ない発言として見過ごすことはできない。そのような言い回しによって視覚障害者の「さわる」という観察や認識、感受性がどれほどおとしめられてきたか。ぼくは、そのような一般的な価値観によって何度も何度も繰り返し行き詰まりを経験してきた。今回の作品は、そのようなもはやぼくの中にまで染み込んできている「さわる=いやらしい」という美意識を、根底から覆したいと思いながら制作を始めた。点字は、さわるためにだけ意味を持っていると言っても過言ではないだろう。そのような価値観を持った作品を提示したいと思っている。

光島貴之

関連イベント

対談「触って感じるアレコレ」光島貴之 × 服部正

9月22日(日)午後2時～午後4時 511教室(ギャラリー横)

<図版キャプション>

左から

不安な気分

2012年、木製パネル、ミクストメディア 900×900mm

重い空気、あるいは違和感

2012年、木製パネル、ミクストメディア 900×900mm

今にも飛上がりそうなきうきした気分

2012年、木製パネル、ミクストメディア 900×900mm

幸せなところに戻っていく

2012年、木製パネル、ミクストメディア 900×900mm



Galerie
ギャラリー・パンセ
Pensée

甲南大学 《5号館1階》 〒658-8501 神戸市東灘区岡あ 6-9-1



会場 ギャラリー・パンセ

観覧料金 無料

協力 株式会社ナカダイ

お問合せ先

078-435-2572(服部)

078-435-2675(文学部事務室)

シンポジウム

障がい者の創作と現代美術の交差点

—第55回ヴェネチア・ビエンナーレ「百科全書的宮殿」
を足がかりに



2013年11月30日(土) 13:00～16:30

甲南大学 18号館 3階講演室 / 申し込み不要・参加費無料

プログラム

- 13:00～13:05 川田都樹子「本研究会の趣旨について」
- 13:05～13:35 服部正「イントロダクション～ヴェネチアと栗東の澤田真一」
- 13:35～14:05 出原均「展覧会の中の美術史の書き換え」
- 14:05～14:35 山下完和「やまなみ工房での陶芸活動の歴史と現在」
- 14:35～14:45 休憩
- 14:45～15:30 パネルディスカッション（出原均、山下完和、服部正）
「障がい者の創作を現場はどうとらえるのか」
- 15:30～16:30 質疑応答、全体討議



現代美術と障がい者の創作が交差する展覧会や
アートマネージメントの現状について、それぞ
れの分野の専門家を招いてじっくりと考えます。

科研費
KAKENHI

本シンポジウムは、JSPS 科学研究費助成事業（課題番号 25284046）「芸術学と芸術療法の共有基盤形成に向けた学際的研究」（代表：川田都樹子）の助成を受けたものです。

KaaTsg
Konan Arts & Therapy
Study Group

甲南アーツ&セラピー研究会
E-mail kaatsg@live.jp

協力

kihs
Konan Institute of
Human Sciences

甲南大学人間科学研究所
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
Tel/Fax 078-435-2683 kihs-konan-univ.org

障がい者の創作と現代美術の交差点

—第55回ヴェネチア・ビエンナーレ「百科全書的宮殿」を足がかりに

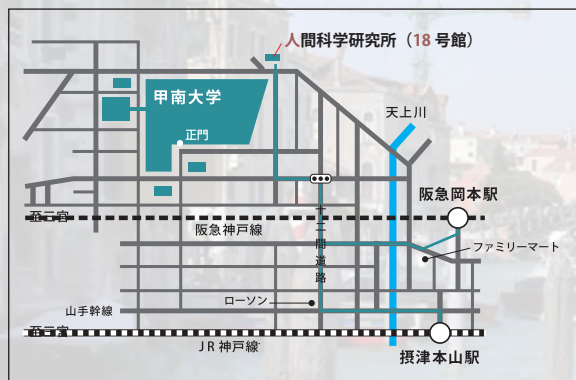
今年で第55回を迎えた現代美術の祭典ヴェネチア・ビエンナーレ（6月1日～11月24日）の企画展は、「百科全書的宮殿（Il Palazzo Enciclopedico）」をメインテーマとして、視覚文化における既定の枠組みの解体や越境を目指すものでした。そのため、宗教的な役割をもつ絵画やアウトサイダー・アートなど、現代美術の領域とは異なる分野の創作物が多く展示されました。とりわけ、滋賀県在住で自閉症の障がいがある澤田真一の作品が出品されたことは、日本の福祉界で大きな話題を呼んでいます。

このような現代美術の展覧会で障がい者の作品が展示されるということは、何を意味するのでしょうか。芸術を理解するうえで障がいの有無などは関係ないと言ってしまえばそれまでですが、事態はそれほど単純ではありません。現代美術の文脈に障がい者の創作を組み込むことには、制度論的なメッセージが伴います。障がい者の創作物には、たとえば枠組みの解体というような、何らかの役割が期待されているのです。創作活動の現場という立場から考えても、障がい者の創作を支える福祉施設が、現代美術における批評や流通の制度と考え方を共有することには困難が伴います。

障がいのある人の創作について実践的な研究を行うにあたっては、美術と福祉の間にあるこのような微妙な問題を丁寧に読み解いていくことが不可欠です。このシンポジウムでは、障がい者の創作と現代美術批評それぞれの現場から専門家をお招きし、現代美術と障がい者の創作が交差する場所に生じる問題について考えます。

本シンポジウムは、JSPS 科学研究費助成事業（課題番号 25284046）「芸術学と芸術療法の共有基盤形成に向けた学際的研究」（代表：川田都樹子）の助成を受けたものです。

2013年11月30日（土）13:00-16:30 / 申し込み不要・参加費無料 / 甲南大学18号館3階講演室



・阪急神戸線岡本駅またはJR神戸線摂津本山駅下車、北西へ徒歩約10分。
・会場には駐車場がありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

出原均（ではら・ひとし、兵庫県立美術館学芸員／現代美術批評）

1958年生まれ。広島市現代美術館学芸員を経て、2007年より現職。「現代絵画のいま」などのテーマ展や現代作家の個展の企画に携わるほか、現代美術に関する評論などを行っている。著書に『Yanagi Yukinori Inujima Note / 柳幸典 犬島ノート』（2010年、ミヤタケ・ファインアート、共著）など。

山下完和（やました・まさと、やまなみ工房施設長／障がい者の創作支援）

1967年生れ。1989年から滋賀県甲賀市甲南町の無認可作業所「やまなみ共同作業所」支援員、1990年に「アトリエころぼくくる」を設立、2008年より現職。陶芸や絵画を中心に、障がいのある人の創作に寄り添いながら支援を続けている。

服部正（はっとり・ただし、甲南大学文学部准教授／美術史、芸術学）

1967年生まれ。兵庫県立美術館学芸員、横尾忠則現代美術館学芸員を経て2013年より現職。専門は、障がい者の創作、アウトサイダー・アートに関係する研究と展覧会の企画。著書に『アウトサイダー・アート』（光文社新書、2003年）、『アール・ブリュットの極北へ』（現代企画室、2013年、共著）など。

公開シンポジウム (民族藝術学会 特別研究例会)

「アウトサイダー・アート」再考 その流通とマーケット

2014年4月20日(日) 14:00~17:00 甲南大学2号館211教室

障がい者による創作行為や、独学自修者による創作物(「セルフポート・アート」)などの周縁的な美術作品は、しばしば「アウトサイダー・アート」と呼ばれます。この「アウトサイド」のアートに対する評価は、論じる側の戦略的、政策的な立場の違いから、「正規の」美術と様々な距離感を測りながら行われてきました。障がい者による創作物は、今日においても、単純に「アウトサイド」であり得るのでしょうか? アウトサイダー・アートは「正規の」美術とどう接続しているのでしょうか? このシンポジウムでは、「流通」や「マーケット」という観点から、アウトサイダー・アートを再考します。(このシンポジウムは民族藝術学会創立30周年記念事業の一環をなすものです)

リール・ヌトロポール近現代アール・ブリュット美術館展示風景

プログラム

- 開会挨拶 神林恒道 (民族藝術学会会長)
- 趣旨説明 「アウトサイダー・アートの近況」 服部 正
- 基調報告1 「山下清のマーケティング戦略」 藤原貞朗
- 基調報告2 「OUTSIDE IN: 周縁と主流をつなぐマーケット」
小出由紀子
- ディスカッション「アウトサイダー・アートの流通とマーケット」
服部正、藤原貞朗、小出由紀子、岡田裕成
- 特別ゲスト: 今中博之
- 閉会の辞 川田都樹子 (甲南大学教授)

登壇者プロフィール (五十音順)

- 今中博之 (社会福祉法人素王会理事長、アトリエインカーブ・クリエイティブディレクター) 著書に『観点変更—なぜ、アトリエインカーブは生まれたか?』(2009年、創元社) など。
- 岡田裕成 (大阪大学准教授・美術史) 著書に『南米キリスト教美術とコロニアリズム』(2007年、名古屋大学出版会、齋藤晃との共著) など。
- 小出由紀子 (インディペンデント・キュレーター、小出由紀子事務所代表) 編著に『ヘンリー・ダーガー 非現実を生きる』(2013年、平凡社) など。
- 服部 正 (甲南大学准教授・美術史) 著書に『アウトサイダー・アート—現代美術が忘れた「芸術」』(2003年、光文社新書) など。
- 藤原貞朗 (茨城大学教授・美術史) 著書に『オリエンタリストの憂鬱—植民地主義時代のフランス東洋学者とアンコール遺跡の考古学』(2008年、めこん)、『山下清と昭和の美術—「裸の大将」の神話を超えて』(2014年、名古屋大学出版会、服部正との共著) など。

会場 甲南大学2号館211教室(教室は変更の可能性があります。会場の案内表示をご確認ください)

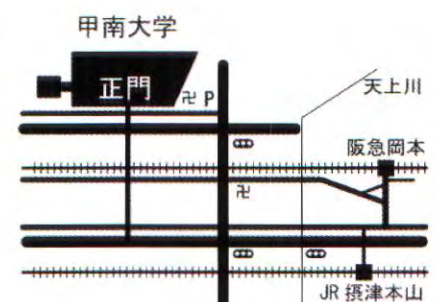
申し込み不要・参加費無料

JR神戸線摂津本山駅から徒歩12分、阪急神戸線岡本駅から徒歩10分(神戸市東灘区岡本8-9-1)。
駐車場はございませんので、公共の交通機関をご利用ください。

主催 民族藝術学会、甲南アーツ&セラピー研究会

助成 JSPS 科学研究費助成事業 「芸術学と芸術療法の共有基盤形成に向けた学際的研究」(基盤研究(B) 25284046 代表: 川田都樹子)

問い合わせ先 outsidersart.mg@gmail.com



「再発見！ 民族芸術学。」

民族芸術学の新たな可能性を考える

民族芸術学会創立 30 周年

1984-2014

民族芸術学会の概要と活動

創立 1984 年

会員数 正会員 727 名 学生会員 67 名 (2014 年 3 月現在)

役員

- 〔会長〕 神林恒道 〔名誉会長〕 木村重信
 〔評議員〕 安藤忠雄 伊藤郁太郎 小川後楽 川野洋 菊竹淳一 杉村棟 千宗守 永井信一 端信行 藤井知昭 細井雄介 山口修 山田幸平 吉田宏志 吉田泰巳
 〔理事〕 秋山光文 天野文雄 井関和代 板谷徹 伊東一郎 伊東信宏 伊從勉 上野智子 後小路雅弘 大久保恭子 大高保二郎 大橋力岡田裕成 小澤弘 河合徳枝 川口幸也 神林恒道 木村重信 岸上伸啓 園府寺司 河野元昭 近藤秀實 卜田隆嗣 杉田繁治 谷一尚 出川哲朗 永原恵三 仲間裕子 西垣安比古 濱田琢司 原田平作 福本繁樹 藤井龍彦 藤田治彦 吉田憲司

主な活動

- 〔大会〕 年 1 回開催
 〔研究例会〕 大阪を中心に、名古屋、福岡などで年 4 回開催
 〔東京研究例会〕 年 3 回開催
 〔学会誌『民族芸術』〕 年 1 回発行 (右欄参照)
 〔学会賞〕 毎年「木村重信民族芸術学会賞」を授与

本年度の大会

本年度は、創立 30 周年の記念大会を 9 月 21 日 (日) ~ 22 日 (月) の日程で、国立民族学博物館において開催します (当番校: 国立民族学博物館・大阪大学)。「再発見！ 民族芸術学。」をテーマとして、2 つの公開シンポジウムを開催します。一般発表の募集は 6 月頃を予定。

シンポジウム 1 (9 月 21 日): 「周縁」から「接触領域」へ — 民族芸術学の新たな可能性を探る

シンポジウム 2 (9 月 22 日): 「イメージの力」再考

* タイトルなどは変更されることがあります。

学会誌『民族芸術』

ジャンルや地域の枠を超え、芸術に関する幅広い研究を取り上げる査読付き学会誌です。特定のテーマを掘り下げたカラーグラビアと「特集」、会員の投稿論文を掲載する「民族芸術学の諸相」、最新の展覧会やパフォーマンスの批評を集めた「民族芸術学の現場」などで構成されます。

狭い意味での「民族芸術」だけでなく、主流的な芸術領域について斬新な視点を提示する論考、あるいは、研究領域の狭間に位置するようなテーマに挑戦する研究も、積極的に取り上げます。



最新号 (vol.30) の内容

カラーグラビア・特集「芸能の力」震災後の東北地方の現状にも注目。論文 8 編。

民族芸術学の諸相 「祇園町の都をどり」、雲南省モンの現代民族衣装、「セルビアにおけるポピュラー音楽史」、「ロシアにおけるピカソ・コレクション」、「インドネシアの現代美術」など取り上げた論文 14 編。

民族芸術学の諸相 古典芸能、染織、陶芸から現代美術に至る多様なジャンルの批評 16 編

バックナンバーの特集テーマ それぞれの分野の専門家が編集する「特集」では、多様なテーマを扱ってきました。主なものとしては、「インドネシアの芸術と文化」(vol.3) / 「アフリカの芸術と生活」(vol.5) / 「南アメリカの先史芸術」(vol.9) / 「パリ」(vol.17) / 「民具と民藝」(vol.18) / 「文化遺産の保存と修復」(vol.19) / 「民族とモード」(vol.20) / 「韓国・日本の茶文化」(vol.21) / 「江戸の民族芸術」(vol.22) / 「沖縄の民族芸術」(vol.23) / 「民族芸術と巡礼」(vol.24) / 「京都の染め」(vol.26) / 「ガラスの東西」(vol.28) などがああります。

入会申込書

FAX または郵便でお送りください。事務所より会費の振り込み用紙を送付します。

年会費は、正会員 10,000 円、学生会員 3,000 円です。学生会員の詳細は HP をご覧ください。

宛先:

民族芸術学会本部事務所
 FAX 06-6850-5121
 〒560-8532
 豊中市待兼山町 1-5
 大阪大学文学研究科
 芸術学・芸術史講座内

フリガナ			
氏名			
フリガナ			
自宅住所	(〒 -)	電話	() -
所属機関住所	名称: 所在地:(〒 -)	電話	() -
メールアドレス			
専門	いずれか一つを選んでください。 美術 音楽 建築 デザイン 演劇 工芸 染織 陶磁 ガラス 服装 芸能 舞踊 文学 歴史 考古 宗教 映像 音響 民俗 書 華道 茶道 生活文化 芸術学 民族学 その他()		
会員種別	正会員 学生会員 どちらかを選んでください。	入会年度	年度
連絡先	自宅住所 所属機関 どちらかを選んでください。		

インターネットからもお申し込みいただけます。

民族芸術学会ホームページ <http://ethno-arts.sakura.ne.jp>

光島貴之 講演会

「芸術家にとって創作はセラピーか」

—ぼくは創作活動で生活の危機を乗り越えてきた

2014年

12月15日(月) 18:00-19:30

甲南大学18号館3階講演室

申し込み不要
参加費無料

講師 光島貴之 (美術家、鍼灸師)

司会 服部正 (甲南大学文学部准教授)

光島貴之さん(みつしま・たかゆき 1954～)は、国内外の展覧会やワークショップなどで活躍中の全盲の美術家です。光島さんが本格的に創作活動に取り組むようになるのは、40代にさしかかる1990年代中頃のことでした。

全盲の光島さんが、敢えて視覚芸術と呼ばれる絵画や彫刻に取り組もうと考えるようになったきっかけは何だったのでしょうか。触覚で鑑賞する視覚芸術の創作に精力的に取り組むということは、視覚に頼らない生活を続けてきた光島さんにとって、どのような意味をもつのでしょうか。

この講演会では、光島さんご自身が視覚障がいとどう向き合い、そこに創作活動がどのような影響を与えたのかという観点から、一人の芸術家の生活史を語っていただきます。それは、アーティストが自作の意味を芸術論として語るという性質の講演会とは異なり、創作活動とセラピーの関係について考えるうえでの貴重な証言となることでしょう。



甲南大学ギャラリー・パンセでの個展「さわるためにだけ存在するものがあったもい」(2013年) 展示風景

主催：甲南アーツ&セラピー研究会 kaatsg@live.jp

本講演会は JSPS 科学研究費助成事業 (課題番号 25284046) 「芸術学と芸術療法の 共有基盤形成に向けた学際的研究」(代表：川田都樹子) の助成を受けたものです。



協力：甲南大学人間科学研究所

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8 丁目 9 番 1 号 Tel/Fax 078-435-2683
E-mail kihs@center.konan-u.ac.jp URL <http://kihs-konan-univ.org>

光島貴之 講演会

「芸術家にとって創作はセラピーか」

—ぼくは創作活動で生活の危機を乗り越えてきた

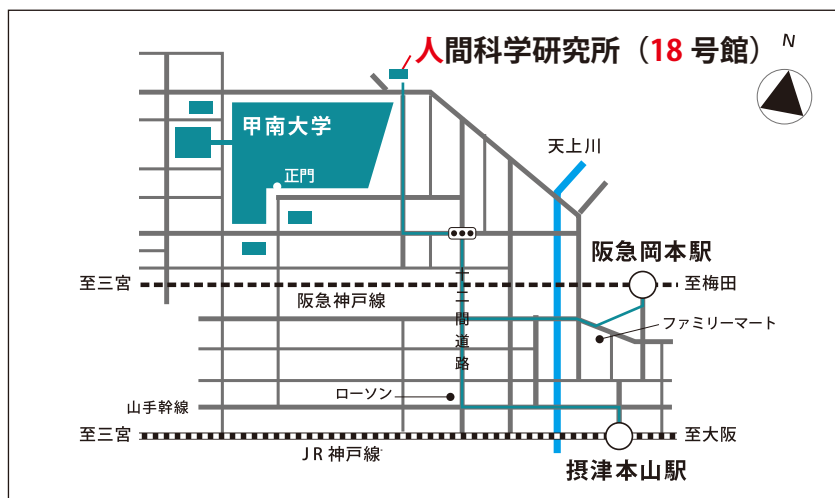
2014年12月15日(月) 18:00-19:30 甲南大学18号館3階講演室



光島貴之 (みつしま・たかゆき) 略歴

- 1954年 京都市に生まれる（先天性緑内障のため、幼時期の視力は0.02程度。10才頃失明）
- 1976年 京都府立盲学校理療科卒業、大谷大学哲学科入学
- 1982年 現在の鍼灸院を開業
- 1987年 野外彫刻など、触れる美術を求めて鑑賞を始める
- 1992年 陶芸家・西村陽平のワークショップに参加し、粘土造形を始める
- 1995年 「触る絵画」の制作を始める、ギャラリー TOM（東京・渋谷区）のグループ展に参加し、以後、本格的な作家活動を開始する
現在まで国内外のグループ展への参加約80回
- 1998年 初個展をギャラリーはねうさぎ（京都市）で開催する
以後、現在まで国内外の美術館や画廊などで個展を25回以上開催
- 1998年 東北芸術工科大学でワークショップ「手で見るかたち」を実施する
以後、大学や美術館など各地で50回以上のワークショップを企画・開催する
- 2002年 対話しながら絵を鑑賞するグループ「ミュージアム・アクセス・ビュー」の結成に参加
- 2013年 甲南大学ギャラリー・パンセにて、個展「さわるためにだけ存在するものがあるかもしれない」を開催

パブリックコレクション：府中市美術館、兵庫県立美術館



上：ワークショップ中の光島貴之（2013年）

中：光島貴之《ガラス柱の木》2002年、せんだいメディアテーク

下：光島貴之「みる／さわる だけではわからない、かもしれない」展
会場風景、2013年、MATSUO MEGUMI + VOICE GALLERY pfs/w

- ・阪急神戸線岡本駅またはJR神戸線摂津本山駅下車、北西へ徒歩約10分。
- ・会場には駐車場がありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。



火曜サロン / 甲南アーツ&セラピー研究会

「福祉国家のアートと教育

—デンマークのビフロスト美術学校の事例から—

2015年3月24日(火) 18:30 ~ 20:30

予約不要・無料

デンマークは世界有数の高度の社会福祉国家として知られています。そんなデンマークのランナース市にあるBIFROST（ビフロスト）美術学校は、障害のある人のための美術学校です。その創立者の1人で教師を務めるアーティストのペア・キヨスコ・イェンセン氏、同じく美術教師として働く松塚イェンセン哲子氏を招き、福祉国家デンマークのアートスクールでの活動を、紹介していただくとともに、障がい者の創作活動やデンマークのアートシーンに詳しい専門家を招いて、座談会を開催します。

<プログラム>

第一部 レクチャー 18:30 ~ 19:20

講師：ペア・キヨスコ・イェンセン

(美術家、ビフロスト美術学校創設者)

松塚イェンセン哲子 (美術家、ビフロスト美術学校美術教師)

第二部 座談会 19:30 ~ 20:30

出演：服部正 (甲南大学文学部人間科学科准教授) <進行役>

片山みやび (美術家、美術造形教室アトリエトロッポ講師)

鈴木慈子 (兵庫県立美術館学芸員) <通訳兼任>

ペア・キヨスコ・イェンセン / 松塚イェンセン哲子

前半のレクチャーでは、ビフロスト美術学校の運営や活動がどのように行われているのか、それがデンマークの社会制度や教育や思想とどう関係しているのかなどについて、作品や教室の写真を交えながら紹介します。後半の座談会では、日本とデンマークにおける障がいのある人の創作活動への取り組み方の違いや、アートが社会に占める位置など、アートと福祉国家のあり方をめぐってお話を展開します。



<同時開催>

デンマークからの風 BIFROSTの作家達展

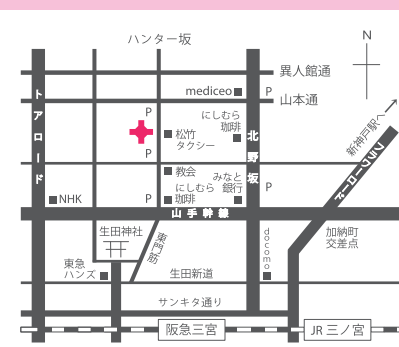
松塚イェンセン哲子展

2015年3月21日 | 土 | ~ 4月1日 | 水 |



ベント・ハヴン「ペーパーマン」

ギャラリー 島田



Gallery Shimada

開廊時間 12:00-19:00

火曜日は -18:00

最終日は -16:00

会期中無休

神戸市中央区山本通 2-4-24

リランズゲート B1F+1F

TEL & FAX 078-262-8058

<http://www.gallery-shimada.com>

info@gallery-shimada.com



第7回 KAaTsg 研究会(甲南アーツ&セラピー研究会)

座談会「これからのダンスと健康について話そう」

日時：2016年3月30日(水) 14:00-16:30(延長あり)

甲南アーツ&セラピー研究会では、この度コンテンポラリー・ダンサーとしてご活躍されている砂連尾理さんをお呼びして、ダンスと健康についての座談会を行います。砂連尾さんは、コンテンポラリー・ダンサーとして長年ご活躍されておりますが、2007年に障がい者との舞台作品を制作されたことをきっかけに、ドイツ研修時にベルリンの障がい者カンパニーTheater Thikwaと国際共同プロジェクトを行ったり、また近年は知的障がい者の施設や老人介護施設、子どもとのワークショップの活動を定期的に行って来ました。



今回は来聴者との簡単なダンス・ワークショップも指導していただきながら、砂連尾さんのこれまでの活動の経緯やコンテンポラリー・ダンスの可能性についてうかがいます。そこから話を広げて、ダンスと健康、日本の福祉制度についてなど、気軽に話すことのできる場にしたいと考えています。会場からの積極的なご発言も期待しております。お子さん連れでもOK。ふるってご参加ください。

場 所：甲南大学 18号館 3階 講演室

講 師：砂連尾理 (コンテンポラリー・ダンサー)

聞き手：内藤あかね (甲南大学カウンセリング・ルーム/芸術療法)

司 会：石谷治寛 (甲南大学人間科学研究所博士研究員)

参加無料・参加希望の方は、①名前 ②e-mail アドレス ③職種 (または所属先など) を明記し、3月29日までに kaatsg@live.jp までメールでお申し込みください。

[砂連尾理 \(じゃれお・おさむ\)](#)

大阪生まれ。学生時代よりダンスを始める。1991年、寺田みさことダンスユニットを結成。2002年、「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2002」にて、「次代を担う振付家賞 (グランプリ)」「オーディエンス賞」をW受賞。これまでに海外10ヶ国12都市で公演を行う。2004年、京都市芸術文化特別奨励者。2008年、文化庁・新進芸術家海外留学制度の研修員として、一年間ベルリンに滞在。近年はソロ活動を中心に、ドイツの障がい者劇団ティクバとの「Thikwa + Junkan Project」(ドラマトゥルク：中島奈那子)、舞鶴の高齢者との「とつとつダンス」及び「とつとつダンス part. 2-愛のレッスン」、音楽家・野村誠との「家から生まれたダンス」、宮城県名取市閑上(ゆりあげ)の避難所生活者の取材を元にした「猿とモルターレ」、濱口竜介監督映画「不気味なものの肌に触れる」への振付・出演など多方面に精力的な活動を展開している。立命館大学、神戸女学院大学非常勤講師。今年は神戸新長田でアジアのダンサーとともに「ダンスと仕事とお金についてのおもしろい話とパフォーマンス」を公演。砂連尾理 HP→ <http://www.osamujareo.com/>

本研究会は、JSPS 科学研究費助成事業 (課題番号 25284046) 「芸術学と芸術療法の共有基盤形成に向けた学際的研究」の助成を受けたものです。連絡先：kaatsg@live.jp

共催 甲南大学人間科学研究所 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9番1号 Tel/Fax 078-435-2683

A Different Perspective: Art Therapy in the United States – What It Is and What Is Not

別の視点: アメリカにおけるアートセラピー---何がそうで何がそうでないのか？

2016年6月11日（土）

10:00~12:00（9時40分から受付開始）

場所 甲南大学18号館3階講演室

講師：メルセデス・テルマート（Mercedes Ballbe ter Maat, Ph.D., LPC, ATR-BC）通訳あり

司会：内藤あかね（甲南大学心理臨床カウンセリングルーム／臨床心理学・芸術療法）

参加無料

事前申し込み不要

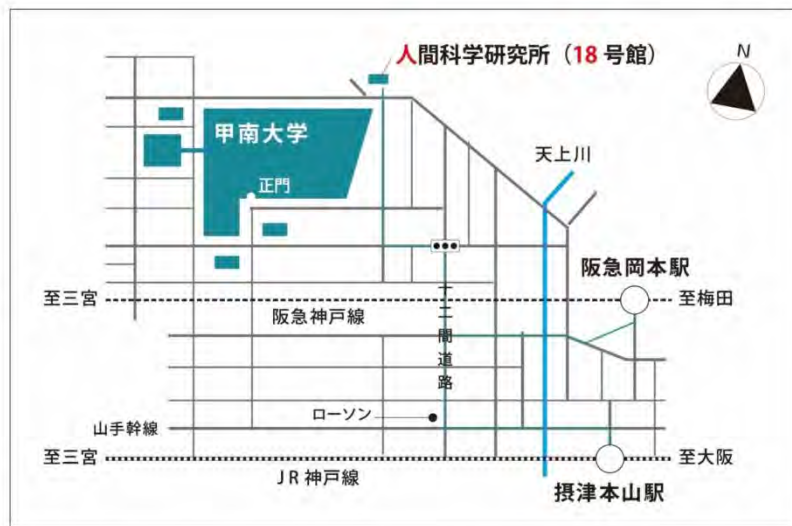
アートセラピーに関心のある方でしたらどなたでもお気軽にご参加ください

講師紹介：Mercedes Ballbe ter Maat

Nova Southeastern University心理学部カウンセリング学科准教授。カウンセリング教育者、メンタルヘルス・カウンセラー、スクールカウンセラー、アートセラピストとしてこの30年活動している。米国内外にてスクールカウンセリング、メンタルヘルス・カウンセリング、アートセラピーの分野でリーダーシップを発揮しており、モチベーション・インタビュー、多文化カウンセリング、家族危機、倫理、スーパービジョン、カウンセリングやセラピーにおけるアートの使用などの話題をしばしば提供している。2011年から2013年にかけて全米アートセラピー協会会長を務める。



第8回甲南アーツ&セラピー研究会では、米国でカウンセリングとアートセラピーの分野でご活躍中のMercedes ter Maat先生をお招きし、現在米国でアートセラピーはどのような実践がされているのかご発表いただきます。全米アートセラピー協会会長を務められたこともあるテル・マート先生には、アートセラピーと隣接領域との違いやアートセラピストの多岐にわたる活動について、講義だけでなく事例の紹介もしていただきます。また、テル・マート先生はアルゼンチンのご出身で、自らの異文化体験も含め、アメリカの多民族国家的背景を意識したお話が伺えるかもしれません。臨床家として、また専門家養成課程の教員として経験を積んでこられた先生には、幅広い視点で語っていただく予定です。また、体験的な学びを重視されるということで、アートワークの実習も行います。今回のご発表では、アートのもつ力や可能性について、聴講して知るだけでなく、実際に体験して感じていただくことも目的としています。アートセラピーと周辺領域の専門家から、その分野に関心をもつ一般の方まで奮ってご参加ください。



問い合わせ先

甲南大学人間科学研究所

〒658-0073

神戸市東灘区岡本8-9-1

078-435-2683

kihs@center.konan-u.ac.jp

- ・ 阪急神戸線岡本駅またはJR神戸線摂津本山駅下車、北西へ徒歩約10分。
- ・ 会場には駐車場がありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

主催：甲南アーツ&セラピー研究会 kaatsg@live.jp

協力：甲南大学人間科学研究所

本講演会はJSPS科学研究費助成事業（課題番号25284046）「芸術学と芸術療法の共有基盤形成に向けた学際的研究」（代表：川田都樹子）の助成を受けたものです。

2016年9月17日 公開研究会「障がいのある人の創作活動—実践の現場から」

以下の日程で研究会が開催されます。

公開研究会「障がいのある人の創作活動—実践の現場から」

日時：2016年9月17日（土）16：00～17：30

参加費：聴講無料、予約不要

会場：甲南大学岡本キャンパス 3号館 324教室

〒657-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9番1号

阪急神戸線岡本駅またはJR神戸線摂津本山駅下車、北西へ徒歩約10分。

会場には駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

内容：

趣旨説明（服部正・甲南大学文学部准教授、人間科学研究所兼任研究員）

事例報告1：「いつもの作業場ではなく、家でもない、寄り道的な居場所として・・・」

金武啓子（西淡路希望の家美術部代表）

事例報告2：「工房集が表現活動に取り組む理由、そこで大切にしていること」

宮本恵美（工房集管理者）

質疑応答とディスカッション：

コメンテーター／大内郁（元藁工ミュージアム学芸員）

沼田里衣（大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員）

e-mail：hattori@center.konan-u.ac.jp

（研究会に関するお問い合わせは上記のアドレスまで）

※本研究会は、科学研究費助成・基盤研究（C）「障がい者の創作活動の美術的評価手法の確立」

（代表研究者・服部正、課題番号26370121）の助成を受けています。

* 当日13：00～16：00に、同じ会場にて「民族芸術学会第142回研究例会：障がい者の創作物の発表について」を開催します。ご関心のある方は、こちらもぜひご参加ください。

[\(http://ethno-arts.sakura.ne.jp/\)](http://ethno-arts.sakura.ne.jp/)

公開研究会「リールはいかにして、アートを精神医療に導入したか」

場所 甲南大学 18号館3階講演室

日時 2016年11月11日(金) 16時20分~19時30分

16時20分~17時20分 「フランコバザーリアのコペルニクスの転換」

Massimo Marsili 精神科医 リールWHO協力機構 所員

(10分休憩)

17時30分~18時30分 「アートと精神医療」

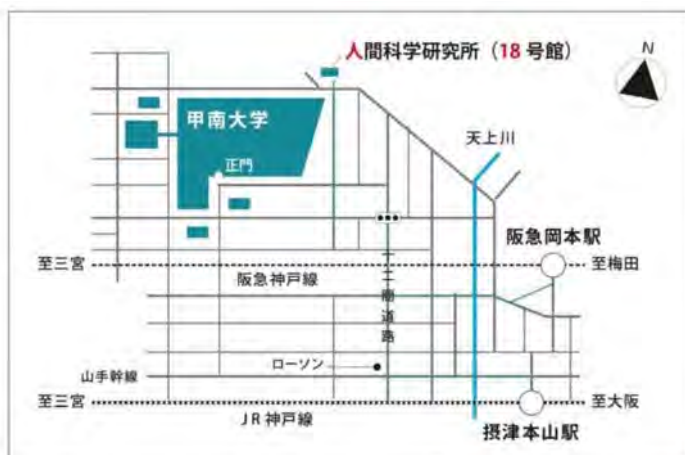
Jean-Luc Roelandt 精神科医 リールWHO協力機構 所長

(質疑 60分)

通訳 三脇康生 (精神科医 仁愛大学大学院 人間学研究科 臨床心理学専攻 教授)

本事業は、JSPS 科学研究費助成事業(課題番号 25284046)「芸術学と芸術療法の共有基盤形成に向けた学際的研究」(代表:川田都樹子)の助成を受けたものです。

甲南大学人間科学研究所共催



問い合わせ先：
甲南大学人間科学研究所

〒658-0073
神戸市東灘区岡本8-9-1
078-435-2683

kihs@center.konan-u.ac.jp

- ・ 阪急神戸線岡本駅またはJR神戸線摂津本山駅下車、北西へ徒歩約10分。
- ・ 会場には駐車場がありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

KAaTsg

Konan Arts & Therapy
Study Group

詳細についてはウェブをご覧ください。
kihs-konan-univ.org/blog/aat



ご関心のある方はメールでご連絡ください。 kaatsg@live.jp

甲南大学心理臨床カウンセリンググループのスタッフや甲南大学人間科学研究所研究員が中心になって、関西のアートセラピスト（アーツセラピー実践家）の連携や情報交換を行う場として、甲南アーツ&セラピー研究会(KAaTsg)を立ち上げました。活動日は不定期ですが、主に月一回程度で活動を行う予定です。活動内容としては、関西で活躍しているアートセラピストに来ていただいて話を聞く、内外の文献などを通してアーツセラピーの臨床についてより深く学ぶなどといった取り組みを考えています。美術、芸術教育から、音楽、ダンス、詩歌や伝統文化なども視野にいれて、幅広い知識を得る場になればよいと思います。さらに、アートやセラピーに携わる方々の現状も認識して、問題点についての意見交換の場にもなればと考えております。

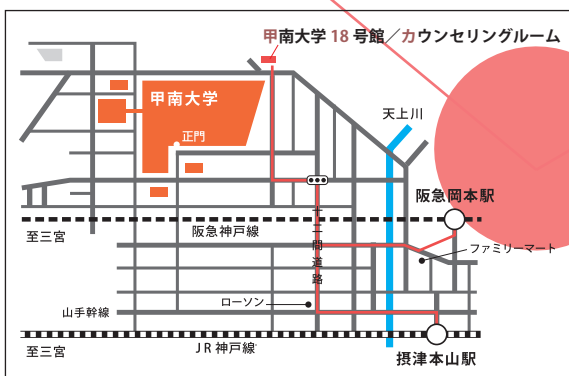
関係各位の方々には、是非私たちの活動にご賛同いただき、情報提供や公開研究会へのご参加などご協力いただけましたら幸いです。

甲南アーツ & セラピー研究会 (KAaTsg, Konan Arts and Therapy Study Group)

内藤あかね（甲南大学カウンセリンググループ相談員）
椋田三佳（画家）
川田都樹子（甲南大学文学部教員）
石谷治寛（甲南大学人間科学研究所博士研究員）
畑中麻子（甲南大学人文科学研究科博士後期課程在学）
E-mail : kaatsg@live.jp Tel : (078) 453-6183
所在地：神戸市東灘区岡本 7-12-22

関西のアートとセラピーに たずさわる人たちをつなぐ

甲南大学 18号館 / カウンセリングルーム



・阪急神戸線岡本駅またはJR神戸線摂津本山駅下車、北西へ徒歩約10分。
・会場には駐車場がありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

科研費
KAKENHI

協力

kihs
Konan Institute of
Human Sciences

JSP科学研究費助成事業(課題番号 25284046)「芸術学と芸術療法の共有基盤形成に向けた学際的研究」(代表:川田都樹子)の助成を受けています。

甲南大学人間科学研究所

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9番1号

Tel/Fax 078-435-2683 kihs-konan-univ.org